

新芽第37号刊行のご挨拶

同窓会会長

小林 満男

同窓会会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。

我々の母校、奈良高専は一期生の方々が昭和39年(1964年)に入学されてから、来年平成26年(2014年)には、学校創立50周年を迎えます。

一期生入学の昭和39年(1964年)は、東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開催された年でした。まさに日本の高度成長真只中に奈良高専は産声を上げました。

学校の建設が遅れ、入学式は奈良学芸大学で行われ、奈良県桜井市に仮校舎と寮として天理教教会の宿泊施設を借り、スタートしました。その翌年、現在の大和郡山市の敷地に本校舎が完成しました。

その後、日本は、大阪万国博、札幌冬季オリンピック、オイルショック(高度経済成長の終焉)、プラザ合意(円高)、バブル景気、バブル崩壊、阪神大震災、リーマンショック、そして東日本大震災と数々の出来事を経てきました。その間、奈良高専は、学科の増設、専攻科の設置を経て多くの卒業生(数千名)を生み出し、社会の様々な分野に微力ではありますが貢献してまいりました。

全国の高専の卒業生の多くの方々が日本の物づくり携わってこられた中、日本の製品は、戦後の粗悪品評価の時代から、高い技術力に支えられた高品質製品へと生まれ変わり、世界が信頼するブランド「MADE IN JAPAN」に成長しました。この成果は、卒業生の皆様の努力の賜物と考えます。この一翼を奈良高専も担ってきたと思います。

この成果を達成する為には、世代を越えた技術の継続的開発、伝承が必要であったと考えます。高専で培われた基礎学力や5年間の一貫教育、寮生活を通じた家族的繋がりが、その事に役立ったのではないのでしょうか。

同窓生一人一人の50年間に亘っての行動から醸し出される評価が、奈良高専の校風と伝統を作り上げてきました。この校風や伝統は、同窓生一人一人の行動により今後も変わり続けると思います。良い伝統と校風が継承されるよう同窓生の皆様に期待しております。

そして現在、高専制度は、内外より高い評価を受けていると聞いております。これらも同窓生の皆様の日ごろの成果が、生み出していると思います。

同窓会は、学校の50周年事業を応援します。皆様同窓生の絶大なる支援に期待をしております。よろしく願いいたします。

同窓会総会を今年も開催いたします。皆様も大変お忙しいとは思いますが、ご参加をお願いいたします。

同窓会会員の皆様のご健勝を祈っております。

会誌『新芽37号』発行に当たりご挨拶といたします。